

【介護から自分を知る⑩】

東海社会福祉科学研究所

大北 秀雄

9 介護の問題・課題

前回までは介護の現状として、その置かれている環境とそのことに対する方法を事前に考えることや、現在介護の必要な状況になっている場合の考え方を説明しました。今回からは具体的な内容によりその対処の方法を考えていきたいと思います。

(1) 再確認

独居、高齢者家族なのか高齢者との同居家族なのかによっても、支援の方法が大きく異なってきます。また、地域の環境によってもその対処の方法が異なってきますが、書籍等で紹介されている内容は、一般的なことであって的確な対応方法とはいえない場合がありますので注意して考えてください。

過去であれば大家族であり、地域との交流は当然ですし、親戚付き合いも深いものであり、友達関係も長い期間の積み上げで信頼関係の構築がされていたと思います。現在は、核家族で、個人主義が主流であり、日常生活の中で助け合うという気持ちを持つことは少ないと思います。

現在における人と人との関係は、価値観の違い、物差しの違い、愛情の違いなどが複雑になっており、人を理解すること難しい状態です。

夫婦、親子であっても本当に思いやりがあるのか、その話す内容は本音なのかによっても現在、将来の方向性が異なります。何か発生した時や将来発生することについての話し合いであっても、現実には建前と本音を交差させて会話しているのではないのでしょうか。

精神的、金銭的にも疲労感があり、ストレスの多い社会ですが、生きる権利は平等にあるはずですから、皆が現実を直し優しい気持ちで対応することが求められているのではないのでしょうか。

(2) 生活内容の確認

認知症などの症状の度合いによってその対応が異なることは当然ですが、その進行状況を的確に把握し、その対処方法を検討することが求められています。

現状を確認する方法としては、一日（24時間）の流れを細かく把握することから始まります。確認する場合は、一週間程度を基本において時間割を作成してください。なお、時々決まったこと以外のことがある場合はその旨記載することをお勧めします。

どのように家庭で生活しているのか、また外出の頻度、内容などを理解することで、生活パターンが見えてきますし、その時の精神状態も多少は確認

ができるものと思います。

具体的な資料が無い状態で話し合いや相談をすることは、的確な対応が一段と難しくなりますし、時間が掛かってしまいますので注意してください。

生活パターンを大きく変化させない方法があるのか、また本人、家族に影響が少なくすむ方法があるのかの課題を検討することから始まります。次の課題は、どうしてもありうる変化について、皆が大きな無理をしないで対応することを考えることが一番大切です。